

新生児聴覚検査の県内取組状況：平成28年5月から一部市町村で新生児聴覚検査に係る費用の全額公費負担開始、平成29年4月から全市町村で実施。

令和6年8月マニュアル改訂の経緯：国から令和5年10月3日付け「新生児聴覚検査の実施について」の一部改正について（別添）が発出され、その中で、都道府県においては、確認検査でリファーとなった児に対する先天性サイトメガロウイルス感染症の検査が推奨されていることを踏まえた対応についても協議することとされた。併せて、検査機関の拡充についても追記。



高知県子ども福祉課子育て支援課
平成28年3月
(令和6年8月改訂)

改訂の概要

1. 要精密検査となった児に対する先天性サイトメガロウイルス検査（尿のサイトメガロウイルス検査）の実施について（令和6年9月1日から）

国の通知を踏まえ、新生児聴覚検査を実施後、確認検査でリファーとなった児に対する先天性サイトメガロウイルス感染症の検査体制を構築するため、令和5年度に高知県新生児聴覚検査連絡協議会での検討及び高知県周産期医療協議会で検討・承認を経て右のフロー図に基づき実施することとなる。なお、高知県の住民が県外へ里帰り出産をされた（県外医療機関で分娩し新生児聴覚検査を受検）場合で、確認検査でリファーだが、先天性サイトメガロウイルス感染症の検査を受けていない場合で、帰高後に検査を希望する場合には、保護者が市町村の母子保健担当に相談することで、検査可能な医療機関について情報提供することとしている。（検査可能医療機関については、令和5年度の協議の中で、一般には公開しないこととなっているため）。

※先天性サイトメガロウイルス感染症検査については、保険診療での取扱となる。

2. 検査機関の追加について

これまででは、分娩医療機関での確認検査でリファーとなった児については、高知大学医学部附属病院の1箇所のみが精密検査機関であったが、今回、検査体制を拡充することで、精密検査が受診しやすくなり精密検査の未受診を減らし、より早期に相談につながる体制を進めている。

- 精密検査機関：高知大学医学部附属病院
高知県立療育福祉センター【追加】
- 二次検査機関※：高知県立幡多けんみん病院【追加】

※二次検査機関：精密検査機関を補完する機関として、限定的検査・一部難聴の治療を行う。精密検査機関が遠く精密検査の受検が困難な場合などに、児を二次的にスクリーニングすることを想定

3. その他

上記に関連する様式への追記・修正

